



《一般質問》

松枝 治幸 議員

新年度予算は石川町長のカラーが出てない??

問 答

予算は堅実でなければ、まちづくりはできない!!

問 新年度予算編成の中で、苦勞された点と町長独自色を一つ挙げてください、その思いをお聞かせ願いたい。

町長 予算は堅実なものでなければ、いかに住民の福祉向上を叫び、まちづくりの理想を掲げていてもその実現は難しいものとなるので、堅実な予算を作成することを基本にした。

地方財政は、長引く景気低迷の影響や社会保障関係費の増加などに伴って危機的な状況となっていることから、平成24年度の地方財政計画における地方交付税総額はほぼ前年度並みの0.5%増となっており、この地方財政計画などを参考に、国が進めている権限移譲や補助金制度改革などの財源の配分や制度設計の詳細が不明瞭であり、地方へ及ぼす影響は予想できない状況の中、国の動向を特に注視しながら予算編成を行わざるを得ない状況にある。

そのような中、第5次大木

問 旧来の発想にとられない農業ビジネスが展開できるような新規就農者の人材育成、あるいはその中から若きリーダーを育成するような今回の新規事業である、雇用型農業者育成補助等がますます求められている。ハード面での助成や補助金支出だけではなく、ソフト面での産業振興助成策が求められているように感じることがあるか？

町長 産業振興課でも、従来の助成制度を見直し、若い農業後継者が先進地で学ぶことのできる研修制度に改めるとともに、農商工連携を図ることが出来る補助制度を創設し、生産者の皆さんの意識改革や新しい魅力ある農業振興と一緒に考えていきたい。

町総合計画に掲げる各分野目標を期間内に確実に達成するため、主要事業の取り組みを加速させ、施策項目の着実な推進を図るため、これまで以上に各種施策の洗い直しや経費の節減に努めるなど、事務事業の見直しを進めた。

平成24年度、特に力を注ぐ事業として、「誰もが元気になる健康福祉のまち」と「豊かで活力に満ちた元気産業のまち」をつくり出すことである。



改修工事が計画されている子育て支援センター



増改築工事が計画されている大溝小学校

問 今後全国的に防災意識の高まりや県の新防災計画に沿った防災関連予算の今後の見通しについて、町民にも周知すべき点についての計画は？

町長 本町はこれまで、地震、台風、洪水などの自然災害による被害が極めて少なく、非常に恵まれた地域であるがゆえに、防災対策の遅れが指摘されている。昨年の東日本大震災を決定的な契機として、「災害に強いまちづくり」を急務として、防災に関し

ハード、ソフト両面から同時進行で取り組むこととしている。

また、福岡県の自主防災会設置の助成支援事業を活用しながら、本町における重点施策である「災害時要援護者避難支援対策」とあわせて、自主防災会の育成支援に取り組みしていく。災害に強いまちづくりを推進するには、自主防災組織など情報の受け皿の整備とあわせて、地震や津波など突発的に発生する災害の情報を即座に知らしめる機能、台風・洪水被害のように発生後の有効かつ正確な情報を地域に提供し続ける機能を有する施設整備が必須となる。平成24年度は「防災システム設計業務委託料」405万円を予算計上しており、今後計画策定委員会及び作業部会を組織し、大木町版の防災情報の計画策定基本設計に取り組み。

また、消防救急無線は、平成28年5月までにデジタル方式に移行することが決定し、その整備として総額2億円を超過する費用が想定されるので、第5次総合計画の実施

問 国は、45歳未満の新規就農者倍増計画を打ち出しているが、町独自の新規就農者支援策の考えを伺う。

産業振興課長 国の施策を有効に活用しながら、新規就農者や農業後継者の育成を図るには農業法人の存在が欠かせないため、農業法人設立に向けJAと連携し、支援をしていく。

施設面については、これまでと同様に国・県の補助事業、特に県の活力ある高収益型園芸産地育成事業を積極的に導入し、支援していく。

また、空き家は76戸、空きハウスは6軒、今後この情報を新規就農を希望する皆さんに提供し、有効活用していきたい。農地については、農業委員会のあつせんによる農地の紹介や毎年農地利用状況調査を実施しており、遊休農地、工作放棄地等の把握をしている。その情報提供も有効活用していきたい。

問 八丁牟田駅周辺開発事業について、総務建設産業常任委員会での研究テーマとして調査研究した。常任委員会全員の総意としての立場で質問をする。

現在、設計委託業務が発注されており、基本設計段階である駅周辺開発事業計画は、当初の計画平面図とは全く別物となっている。課題が山積していると感じる。解決方法を伺う。

建設水道課長 当初計画である駅舎の南側移転は、全額地元(町)負担となり多額な費用が必要となることから



ロータリーになる？現駐輪場

駅舎を移転しないことで計画している。

また、バスと送迎用車両や歩行者との動線、ロータリーの位置と構造、駐輪所の確保などの課題については、現在測量設計業務委託を発注しており、その業務の中で駅利用者の利便性と、町の顔としての駅前整備を進めるために、具体的な整備計画を立案し、提案していく。

次に、地域住民の理解については、大変重要なことだと思っている。今後、計画が具体化したところで関係者への説明会を行い、関係者のご意見を伺いながら事業を進めた

問 十間橋の橋梁歩道があまりにも狭い。整備の予定は？

建設水道課長 県道久留米柳川線については、県より随時道路整備を進めていただいているところであり、全線に歩道整備の道路改良事業を要望している。将来、道路改良事業等を計画したときにあわせて橋梁の自歩道整備を行うことになる。



再開発計画中の八丁牟田駅前



肩幅より狭い自歩道部分(十間橋)